

平成29年度

研究部報

秋田県立横手支援学校
研究部
平成29年8月28日発行
第1号

授業改善の取組 ミニ授業研究会

授業改善の取組として、ミニ授業研を実施しています。7月11日には1回目の授業研が中学部2年1組を対象に行われました。今回はその単元構想会、授業研究会の様子についてお伝えします。

中学部2年1組 職業・家庭科「家庭の中の自分の役割①」



単元構想会 (6月26日実施)

1 単元について

- ・家庭の中での役割(手伝い)を継続しつつ、家族からの評価を受け、さらに自分の役割を見直すという展開。
- ・「家庭での役割について知る」→「(掃除、洗濯、片づけなど)スキルアップ」→「自分の役割(手伝い)を実践する」という単元の構成にする。

2 本単元の展開について

- ・手伝いと役割を分けて考えるのではなく、手伝いも役割の一つと捉える。
- ・家庭との連携が大事。家族に実際の役割(手伝い)を評価してもらう。

3 授業の展開について

- ①家族の仕事について考え、出し合う。
- ②Yをモデルに提示

家庭での手伝いを発表→Yのすごさを認識→ほかの生徒もやる気UP!

- ③さらに自分のできることを探す。

4 授業における実態差への対応

- ・Yは他の生徒と同様に、その場で考え、ワークシートを書くのは難しい。
→日頃から手伝いをしており、母親からほめられている。
→家庭での手伝いを授業でまとめ、母親とつながるツール作り。
→家庭での様子をVTRでとってもらい、授業で紹介する。

5 その他

- ・「指導内容チェック表」の活用。各学年で取り扱う内容を確認したり、次年度につなげたりする。
- ・職業科と進路学習の扱い。合わせた指導で指導してはどうか。中学校では何の教科等で進路を扱っているか確認してみる。

指導略案作成 授業の実施 (7月11日実施)

* 実際の指導略案は平成29年度 > 研究部 > B4-1 学部研究(中学部) > ミニ研にあります。

授業研究会 (7月11日実施)

授業者からの参観オーダー 活動量の確保と必要な学習内容の選択が難しい



○活動量の確保

- ・生徒自身がカードを貼る活動を設定すると、どの程度「衣・食・住」が理解できているか把握するチャンスだった。相談しながら考える時間を確保する。そのために貼り直しのできる付箋を用意したり、イラストなどを併記するなどの工夫が必要。
- ・テーブルなど環境設定の工夫や人的支援を減らすことで、生徒同士で活動し活動量がUPするのでは。(例えば、Yに貼ってもらうなど参加の仕方を工夫)

○必要な学習内容の選択

- ・「衣・食・住」で仕事を分類する活動であったが、「衣・食・住」をどの程度理解できているのか、事前の押さえが大切。
- ・一日の自分のスケジュールから役割を考えてもよいのでは。一人ひとりに応じた役割が明確になり、より実感をもちやすく、身近に感じられるのでは。
- ・生徒が自分で決める仕事、その視点があいまい。「仕事を増やす」のか、「毎日継続できる」なのか、実態に応じた内容が必要だったのでは。
- ・仕事を選ぶ視点として、「自分たちができる仕事」という視点が分かりやすい。
- ・一つ一つ出している仕事内容は、家庭の中で実際に見ているものなのか、言葉だけの理解なのか、どの程度理解しているかも把握しておく必要があるのでは。

* その他の協議内容は平成29年度 > 研究部 > B4-1 学部研究(中学部) > ミニ研をご覧ください。



改善授業 (7月18日実施)

〈表の作成〉〈生徒同士のやりとり〉

- ・前時に作った表から「できる仕事」を視点にして、新たな表を作成した。→生徒自身でやりたい仕事を選びやすくなった。
- ・各人が各々が表に貼るのではなく、貼る係の生徒と仕事を選ぶ生徒に分けた。→生徒同士で言葉を掛け合いながら活動を進めていくことができた。

〈教材の工夫〉

- ・「仕事」の振り返りの感想を、負の感情も含めた選択肢から選択できるようにした。→「めんどくさい」「自分だけが、不公平だ」などを選びつつも、「家族が喜んでくれるとうれしい」も、選ぶ様子が見られた。

〈実態差への対応〉

- ・仕事を振り返ったり、発表したりする際、Yには、家庭での手伝いの様子を写真に撮ってきてもらい、写真を見せながら発表できるようにした。→頑張っている様子を写真で見てもらい、家族のコメントで補足しながら発表することができた。

小椋先生、鈴木匠子先生授業のご提示ありがとうございました！

授業研究会 9月の予定

4日 ミニ授業研(高2、高3) 7日 全校授業研(高1) 15日 ミニ授業研(小6)

15日 学部授業研(中3) 19日 ミニ授業研(中2) 25日 学部授業研(高3)

